

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1072100314		
法人名	特定非営利活動法人 かしわ		
事業所名	グループホーム かしわ		
所在地	群馬県高崎市箕郷町柏木沢586-5		
自己評価作成日	平成22年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成22年11月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

かしわの場所が比較的静かで、緑豊かな所なので、その様な良い環境の中で、全員の利用者さんが、ゆったりと、安らぎのある生活を毎日送って頂ける様、職員全員で支え合い、利用者又家族の方にここで良かったと納得して頂ける様なホームを築いています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

日々の散歩時には、ゴミ袋を持って道のゴミ拾いをしながら散歩を行ったり、地元の大学や高校の行事に招待され、学生に車いすを押してもらいながら案内して頂いたりしている。また、事業所の行事には地域の人達に声をかけて一緒に楽しんでもらう等、地域住民との交流を大切にしている。利用者や家族の思いや暮らし方の希望を知るためには、家族との面談を大切に、利用者一人ひとりの持っている力を発揮できる場を支援し、調理や配・下膳、庭の草取り、洗濯物たたみ、カラオケ等を職員と一緒に楽しみながら行い、利用者がその人らしく暮らせるよう、全職員で取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の人達と、ゆっくりと安らぎのある個人の尊厳を大切に・・・という理念は全職員が共通した認識のもと策定した。	理念は、地域の人達と気持ちよく過ごせることや尊厳が保たれた生活を目指している。管理者と職員は理念を共有し、日々の中で話し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所での行事の際、地域の人に声掛けをし地域の人達との交流の場を設けている。 (春 マリンバ演奏・秋 日本舞踊、詩吟)	事業所の周囲をゴミ拾いをしながら散歩したり、地域の人達と挨拶を交わし、畑仕事の人にお茶を提供したりしている。事業所の行事には、近隣の方に声をかけて参加頂いたり、町の主催する農業祭や大学・高校の行事に利用者と共に参加して地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人達に施設の行事に参加する機会を設けふれ合ってもらい理解してもらえよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者全体のサービスの実態を報告し話し合い、その意見をサービス向上に活かしている。	会議は2ヶ月毎に開催し、利用者の家族にはその都度全員に連絡し、出席しやすい土曜日を設定して毎回数名が参加している。会議では事業所からの活動報告や支所からの連絡や情報が伝えられ、話し合いを行いそこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の主催する、農業祭や催し物には、利用者と共に参加している。	認定更新や事務処理に職員が出かけたり、理事長が空き情報や相談に出かけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が周知徹底して身体拘束をしないケアに努めている。	玄関や門は施錠せず安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援している。職場会議では、身体拘束の内容や弊害を話し合い、拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待が見過ごされる事がないよう、注意又防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は当施設にも事例はあるので、講習がある時は必ず参加し、活用できる様努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際は十分な説明を行い理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置、面会時、運営推進会議等で、意見、不満、要望等を出して頂けるよう心かけている。	玄関に意見箱を設置している。家族の面会時や運営推進会議後にゆっくりと意見や要望を聴いている。「散歩をしてほしい」などの出された希望は、前向きに活かしている。面会が少ない家族には電話で状況を報告しながら、意見や要望を聴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務の中、会議等で意見提案を出し、その都度話し合いを持ち反映させている。	朝の申し送りや利用者との日常的なかかわりの中で職員間で出された意見は、利用者のケアに反映している。運営に関するアイデア等も話し合いながら調整して取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修を通して介護者としての能力を向上し、やりがいのある仕事、環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の向上の為、都合のつく限り順番にて研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交換研修等を行い、サービス提供の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の生活の中で利用者を観察し変化を見のがす事無くチェックし話を聴く機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に当ホームに来所して頂き、家族又利用者の希望、不安な事を聴き、受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人がどんな事を必要としているか、早い段階で見極め、その人らしく生活していけるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で出来る事は一緒にしてもらい、人生の先輩として尊敬の念を持ちお互いに支え合い時を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の状況を蜜に報告し、本人を家族、職員で共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人は常に気軽に来所出来るよう家族を通して声掛けをして頂いている。	正月やお盆に自宅に帰ったり、墓参りに出かけたたり、葬式に出席するなど一人ひとりの生活習慣を尊重している。孫が結婚して夫婦で面会に見え、一緒に写真をとるなど、継続的な交流ができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士上手に関わりを持ち(洗濯ものたみ・新聞たみ・レク等)楽しく生活していけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや暮らし方の希望を取れ入れ困難な場合は本人の希望を尊重し援助している。	生活歴を参考に、日々のかかわりの中で声かけをして希望を取り入れている。旅館業をしていた方にはエプロンを掛けて食事の準備や片付けをして頂いたり、農業をしていた方には畑で草むしりをして頂く等その人にあった暮らし方の支援をしている。困難な場合は、行動や表情から汲み取り把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に聞く、前施設のサマリー等を参考に得意な事、喜びにつながる事等把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のケアチェック(就寝時間、排泄、排便、バイタル、入浴等)現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の指導、サービス担当者会議での意見、家族、本人の意向、要望等考慮し多くの情報を出し合い本人が本人らしく生活出来るよう介護計画を作成している。	面会時や運営推進会議後に、個々の家族と話をし、本人の思いや意見を聞き計画に反映している。サービス担当者会議で職員等と話し合い、主治医の意見も参考に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子(ケア記録、日勤簿、夜勤簿等)を個別に記録し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、買物等その時々生まれるニーズには柔軟に応じられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員、出張美容、散歩時のゴミ拾い等持てる力を発揮できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を取り入れかかりつけ医との協力を得ながら適切な医療が受けられる様支援している。	利用者の希望のかかりつけ医とし、受診は家族が行い、必要時は事業所で送迎を行っている。協力医の月1回の往診は、家族の同意で事業所で行っている。受診結果については家族に報告し、職員は「受診後状況ノート」で把握し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は設けていないが有資格者に健康状態や医療活用の助言、を求め適切な対応を心かけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の病状により医療機関との情報交換を蜜にとり、以後の治療が安心して受けられる様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、面会時等に重度化した場合や終末期のあり方については、家族の要望を聞くようにしているが、当ホームの方針も説明し了解を得ている。	医療行為が必要な場合は、事業所では対応できないことを入居時に理事長が説明し、管理者や職員は方針を共有している。	信頼関係ができていからこそ変化する利用者や家族のニーズを汲み取りながら、またその時々事業所の力量を把握しながら、現状ではどこまで支援ができるかを常に職員で検討する機会を持つことに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備える為全ての職員が救命講習を受講しているが更なる実践力を身につける為定期的な訓練を計りたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として昼夜の火災を想定し地域の協力を得ながら定期的に避難訓練を行っている。	年2回利用者と共に避難訓練を行っている。夜間の想定も行い、職員は休日でも参加している。地域の協力体制は、区長に参加を頂いているので、さらに運営推進会議で話し合い呼びかけている。水や乾パン等を備蓄し、防災日に食べて補充している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重しその人に合った言葉掛けを職員全員が行っている。	年長者として敬意を払い、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応をしている。排泄や入浴等は、特に誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何か要望がありそうな様子をくみ取り、さり気なく声掛けをし話易い環境を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容を含めその人らしい身だしなみが保てる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握し食事が楽しみになる様支援している。利用者にも下ごしらえ、あとかた付け等できることは一緒に行っている。	食事の一連作業を利用者と共に行い、職員も同じ食卓を囲んで一緒に食事をし、楽しいものになるように支援している。時には利用者と一緒にとってきた畑の野菜を食材にしたり、近所の人から頂いたサツマイモを提供したりしている。利用者の希望で弁当を購入して食べたり、回転寿司などの外食もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量、水分摂取量等一人一人をチェックし栄養が片寄らないよう配慮している。体重測定は月1度行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施しており、夜間は義歯を預り消毒を毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄、排便チェック表を活用し、個人に合わせた排泄リズムを作り自立に向け支援している。	利用者の身体機能に応じて、トイレ誘導したり、見守りなどでトイレでの排泄を大切にしている。リハビリパンツも夜間は装着し日中は外すなど、個別の排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の野菜やヨーグルト摂取、水分摂取の工夫や、朝のラジオ体操も日課にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全面を考え入浴日を決めた中でのその人の健康面や希望に合わせた入浴を行っている。	週2回を入浴日とし、一番に入りたい希望の人は交代して希望に添えるようにしている。入浴拒否の時は、無理をしないで日を替えて誘導している。入浴時に介助に入る職員は、会話を多くし楽しい入浴になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望により就寝時間、照明、騒音等にも配慮し安心して休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬の氏名、種類等必ず確認した上で服薬、副作用については薬の説明書にて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に応じ、掃除、食器拭き、洗濯物たたみ、カラオケ等張り合いの持てる様環境を整え支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	安全面を考慮した上で、利用者の希望に沿った利用者全員で参加出来るよう支援している。	利用者の多くの方がお花を好むので、梅や桜、藤、すいせん、小菊の里等四季の花々を見に出かけている。途中で弁当を買ったり、持参したりして、外での食事も楽しんでいる。近所の散歩は、日常的に行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の理解が出来る方には必要に応じて使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や必要に応じてその都度電話等のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには天窓があり全体が明るく季節感のある花、飾り物、写真等を貼り、昔馴染みの歌を唄ったり、居心地良く過ごせる様支援している。	ホールには天窓や広く開いたガラス窓があり明るく、外の景色が季節感を感じる。台所の調理の様子が見え、料理の臭いに食欲をそられる。壁には、行事の写真や利用者の作品が飾られ、面会時に見られるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人自由に過ごせる様、コタツ、ベンチ等ゆとりのある空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みのある家具などを搬入してもらい落ち着いた生活が出来るよう支援している。	じゅうたんにこたつの部屋、本棚や机、椅子のある部屋、自宅に居た時に描いた油絵を飾っている部屋、服や着物を繕う針箱のある部屋など、それぞれに落ち着いて過ごせる、その人らしさを大切にした居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心して日常生活が送れる様安全な環境づくりに配慮し、自立した生活が送れる様支援している。		